



=対策会議は全体集会・分散会と行われた=

会議は小林良宏副委員長の開会挨拶で始まり、佐々木力委員長を座長に選出。座長は「昨年の拡大以降足踏み状態にあるが、各支部における組織対策会議では教育活動の強化を行った。全体交流の中では各分会の取り組み等を交流でき、意義あるものとなつた。もう一人の仲間を増やすため、全組合員が共に奮闘しよう。」

検証し次への取り組み強化

本部が2012年12月5日に闘争指令第1号を発してから2年が経過した。喫緊の課題としてきたが、多くの分会、職場で奮闘が続けられている。こうした中、この一年間の取り組みを検証すると同時に交流を深める中で次への取り組みへつなげるべく9月12日・13日、雪石町・赤い風車にて「第9回組織拡大対策会議」を開催した。会議では各分会組織部長を中心とした36人が出席。職能別を基本に4つの分散会を設けて集中的に議論を行つた。全体交流の中では各分会の取り組み等を交流でき、意義あるものとなつた。もう一人の仲間を増やすため、全組合員が共に奮闘しよう。

部長が、(1)この間の経験から何を学び取るのか(2)リストアップできている分会の具体的な内容

技術継承と人材育成が必要

◇地方本部主務職交流会◇



「主務職会議には15人が参加」

地方本部が主催する「主務職交流会」が9月19日、盛岡市国労会館で開催され主務職の組合員・機関代表ら15人が参加し、職務内容や職場状況の報告をしながら悩みを共有

続けて東日本本部・武田幸喜組織部長から東日本本部における拡大状況が報告され、「山形県支部の大友さんも、福島県支部の佐藤さんも、本人の悩みや相談に国労組合員が親身に向き合うなど、しっかりと関わりを作り続けてきることが拡大に結び付いていたことが拡大に結び付いていた。一括和解から9年が経過しようとしているが、私達自身にまだまだ「差別意識」があるのではないか。今日の情勢を共有し合う中で差別意識を払拭していくことが大事である」と、私達自身の意識の変化が必要であるとした。

分散会を前に菊池要悦組織

部長が、(1)この間の経験から何を学び取るのか(2)リストア

ップできている具体的な内

容を、(3)この間の経験から何を学び取るのか(4)リストア

ップ

で自己紹介を行つた後、全体

の報告では、主務職として

会議は沢田光広書記長が交

流会の提起を行つた後、全體

の報告では、主務職として

